

【研究内容 クラブ活動】

異学年のよさや可能性を認め合い、自己有用感を高めるクラブ活動

山形県朝日町立大谷小学校 教諭 今田 瑞希

1 はじめに

本校のように全校生52人（令和2年度）という小規模の学校では、普段から異学年の交流が行われている。高学年は下の学年の面倒をよくみるとともに、下の学年は上学年の言うことをよくきいている。そのような関係が築かれているからこそ、クラブ活動についてはどうしても6年生の意向が反映しやすくなってしまふ。5年生や4年生であっても自主的・実践的にクラブの運営に参加するとともに、6年生も下学年の意向を汲み上げることが必要になってくる。

そこで、異学年であっても、お互いのよさや可能性を認め合うことにより、「自分にはこんないいところがある」「自分にはこんなことができる」など、学級では気づかない自己のよさに気づき、自己有用感が高まるような実践を行った。なお、本校のクラブ活動は2月まで行うので、実践は令和2年度のものであり、構成人数や年間の実施回数は以下の通りである。

クラブの構成人数

	創作クラブ	パソコン・ゲームクラブ	自然・科学クラブ	スポーツクラブ
6年	2	2	3	8
5年	4	0	1	2
4年	2	2	3	0
合計	8	4	7	10

年間の実施回数（9回）

回数	期 日	内 容
1	6月12日	顔合わせ・年間計画作成
2～8	7月17日 9月11日 9月25日 10月16日 11月20日 12月18日 1月15日	計画に沿った活動
9	2月5日	3年見学会・年間の振り返り

2 実践の概要

(1) 年間計作成時の配慮

6月12日の年間計画作成の際、担当の教員は4・5年生の意向を汲み取る配慮をするように共通理解した。具体的には、クラブ長が計画を決める際に、4・5年生の思いをしっかりと聞くように指導し、年間計画に入れていくことだった。

例えば自然・科学クラブは2月のクラブ活動で「べっこう飴づくり」を行っている。それは、2月のクラブ活動に3年生の見学会があるからだった。昨年度見学した4年生が、楽しそうにべっこう飴づくりをしている姿を見て、自然・科学



べっこう飴づくり(自然・科学クラブ)クラブを選んだので、そのような体験を見学会でもらいたいという意向が反映されている。計画に自分達の思いが反映されていることで、自分達が他の学年からも認められていることを感じ、その後の活動も意欲的に取組んだ。

(2) 活動の中での配慮

子供達は活動に夢中になっていると、他の学年に気持ちが向かなかったり、同じ学年で物事を進めてしまったりする。特に6年生は昨年度も同じクラブの人が多いためにやり方がわかっているの、つい自分たちで活動を進めたい。そのような時、担当が適切なアドバイスをすることにより、6年生も4・5年生も自己有用感を持って活動することができた。

例えば、スポーツクラブは6年生が8人で5年生が2人、**バスケットボール(スポーツクラブ)**ある。バスケットボールをするときに6年生だけでボールを回してしまうことがないようにするために話し合いをして、全員にボールを回してシュートをしたら得点が加算されるルールを作った。すると、6年生は5年生に声をかけてパスをするのと同時に、5年生はそんな6年生の配慮にお礼を言っていた。また、いいプレーが出るとお互いに声援を送ることによって学年をこえた認め合いの場面が見られた。

パソコン・ゲームクラブでは、ストップモーションの動画撮影を行った。動画編集は6年生が授業で学習していたが4年生は知らなかった。そこで、6年生が丁寧に編集のしかたを教えて励まし、できた作品には賞賛の言葉を伝えていた。そのことにより、6年生は4年生への貢献で、4年生は初めてできたことでよさを認め合い、自己有用感が高まった。



バスケットボール(スポーツクラブ)



ストップモーション編集(パソコンクラブ)

(3) 振り返りにおける配慮

本校のクラブ活動では、振り返りを2種類行っている。1つは、活動ごとに行う振り返りと、もう1つは学期ごとに行う活動である。

振り返りには自分自身の活動がどうだったか評価する目的もあるが、もう一つは他の人の活動がどうだったかを評価する目的もあるので、積極的に書いたり発表させたりした。同じクラブの仲間から評価されることにより、「自分もこんなことができるんだな」「仲間のアドバイスでこんなにうまくなれるんだな」などと、自分のよさやできることに気づき、自己肯定感が高まる場面が多く見られた。

例えば創作クラブでミシンを使用するとき、6年生が4年生や5年生にミシンの使い方を教えている場面があった。6年生は家庭科でミシンの使い方を学習しているので、その学習をもとに教えていて、教科で学んだことを応用できる6年生に、4年生・5年生は感心していた。活動が終わって振り返りを行う時、4年生や5年生から感謝の気持ちとともに、6年生の頼もしさが伝えられ、お互いよさを認め合えた。



ミシンを使った活動(創作クラブ)

3 成果と課題

○「年間計画作成時の配慮」「活動の中での配慮」「振り返りでの配慮」の3つについて実践したが、担当者が意識することで、児童にも肯定的に活動を見る目が育っていった。特に異学年をみる目については、普段のたて割り班活動などでも指導することができるので、異学年のよさをお互いに伝える場面を意図的につくっていくことが大切であった。

△「振り返りでの配慮」では、振り返りカードに具体的に友だちの名前を書く児童は少なかった。互いの名前を書きとめておくカード指導も進めていきたい。